

2024年4月

白井なおこ レポート VOL.22

日野・生活者ネットワークニュース 白井なおこREPORT 発行日：2024年4月15日
発行：日野・生活者ネットワーク 発行責任者：出沼恵美子
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4階
TEL:042-514-8695 FAX:042-514-8697 E-mail:hino-net@cap.ocn.ne.jp



ジェンダーに基づく差別や暴力に反対する国際女性デーのアクション「ウィメンズマーチ東京」に参加！渋谷のまちを仲間とともに歩き、声をあげました。（3月8日／写真中央）



日野市らしい有機学校給食の実現を目指して

日野市の学校給食を食べたことがありますか？私は6年間食べていましたが、親になってから、それがいかに安全に配慮し、地域の農業者とのつながりを大切に、手間がかけられたものかに気づかされました。この日野市の学校給食を守りつつ、有機農産物の段階的導入を求め、質問・提案しました。

有機農業の取り組みの後押しを

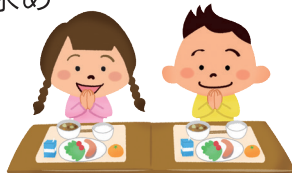
国は、環境と調和のとれた食料システムを目指し、2050年までに**全国の耕作地の4分の1を有機農業に転換する**等の目標を掲げています。化学肥料は原料を輸入に頼っていることから、近年の価格高騰を受けて、有機肥料へのシフトも促しています。

一方、東京都はエコ農産物認証制度(25・50・100)を設け、東京エコ100を有機農業と位置付けています。ただし、100の認証をとるのはハードルが高いようです。また苦勞して作っても、買ってもらえなければ続けられません。農業者が**安心して有機農業に取り組める**よう、他市の有機肥料配布事業を例に具体的な支援策や、市内で有機肥料をつくり広める

取り組みを求め

ました。

◀このマークが目印、
応援しよう！



学校給食は大切な日野市の宝

給食センターで調理し配送する「センター方式」が増える中、日野市では各学校で調理をする「**自校式**」です。地域の農業者から毎朝届けられる新鮮な野菜を、全体で**約3割**使っています。さらに農業者との交流や農業体験を通じて、食について多くを学びます。このような「**食農教育**」は、大切に受け継いでいかねばなりません。

一方で、環境を守り、産業として農業を活性化させていく観点からも、有機農産物を学校給食に導入する自治体も増えてきています。持続可能な社会とは、**自然と共生する循環型の社会**です。まずはそのビジョンをまち全体で共有し、**学校給食への導入を通して有機農業を広めていく**ことを提案しました。市長答弁からも「できることから」という合致点を見出せたと感じています。更に日野市の学校給食の魅力を増していきたいですね！

日野市の学校給食はこの安全指針に基づいています ▶



市民・議会・行政をつなぎ、共に政策を実現します

f 白井なおこ

